

# *HONG KONG JOURNAL OF JAPANESE STUDIES (HKJJS)*

## 執筆要領（日本語）

### 一、原稿の分量

- 本文（15,000 字以内）
- 要旨（400 字以内）
- キーワード（5 項目以内）

### 二、作者のプロフィール（別紙で提出）

- 作者の所属、職級、研究分野及び連絡先といった個人情報を別紙で提出すること。

### 三、本文構造

- 論文名
- 作者名、所属
- 要旨（日本語＋英語）
- キーワード（日本語＋英語）
- 本文
- 参考文献

### 四、原稿書式

- A4 版横書きワード原稿。余白：上下 3.5cm 左右 3cm
- 句読点に全角の「、」と「。」を用いること
- 日本語用フォントは MS 明朝，英数字用フォントは Times New Roman
- 要旨及び本文の書き出しは全角 1 字下げ

● 原稿フォーマット（投稿テンプレートを参照）

| テキストタイプ   | 見出し番号                    | 原稿フォーマット                       |
|-----------|--------------------------|--------------------------------|
| 論文名       |                          | 14pt ポイント 中央揃え                 |
| 論文副題      |                          | 12pt 太字 中央揃え                   |
| 執筆者名および所属 |                          | 10.5pt 中央揃え                    |
| 要旨        |                          | 10.5pt                         |
| キーワード     |                          | 10.5pt                         |
| 章の見出し     | 1<br>2<br>3              | 数字半角、10.5 ポイント、太字 左端揃え         |
| 節の見出し     | 1.1<br>1.2<br>1.3        | 数字半角、10.5 ポイント、太字 左端揃え         |
| 項の見出し     | 1.1.1<br>1.1.2           | 数字半角、10.5 ポイント、太字 左端揃え         |
| 目の見出し     | 1.1.1.1<br>1.1.1.2       | 数字半角、10.5 ポイント、太字 左端揃え         |
| 本文        |                          | 10.5pt、全角 1 字下げ 行間 2 行 左端揃え    |
| 段落引用      |                          | 10pt 行間 1 行 左端揃え 本文左端より 1 字下げる |
| 図表のタイトル   | 図 1<br>図 2<br>表 1<br>表 2 | 9pt 中央揃え                       |
| 注         | 1,<br>2,                 | 9pt 左端揃え 行間 1 行                |
| 参考文献      |                          | 9pt、2 行目以下を 1 字分下げる 行間 1 行     |

## 五、参考文献の表示

### ● 引用・文献の表示：

- 引用・文献表示する時は、文中では「辰巳（1993）」、「Bialystok（1981）」のように書き、論文末に参考文献の形で詳しく記す。（文中の括弧には原則として全角括弧を使用）
- 文献の著者が2名の場合には、ナカグロ「・」を用いる。例：迫田・細井（2018）。著者が3名以上の場合、「筆頭著者名＋他」と記す。例：川澄他（2009）。カッコ内で文献を複数提示する時などは、（綾瀬他，2009；Gass & Ard, 1984）のように記す。

### ● 参考文献リスト順

- 参考文献は日本語文献、英語文献、中国語文献等の順にまとめる。
- 日本語文献は著（編）者名を50音順に、英語文献はアルファベット順、中国語はピンイン順に記載する。
- 同一著者による論文が複数ある場合は、出版年月順に記載する。

### ● 各文献タイプの引用方式：

- 単行本：著者（発行年）『書名』出版社
  - 例：何志明（2010）『現代日本語における複合動詞の組み合わせ：日本語教育の観点から』 笠間書院
- 雑誌：著者（発行年）「題名」『掲載誌名』巻, 号, ページ
  - 例：馬小兵（2011）「複合格助詞『をもって』について」『筑波日本語研究』(16), 31-39
- 単行本から一部を引用：著者名（発行年）「表題」（編者名），『書籍表題』pp. 初頁-終頁. 出版社
  - 例：安田敏朗（2020）「多言語社会の語り方」（福永由佳 編），『顕在化する多言語社会日本—多言語状況の的確な把握と理解のために—』 pp. 58-80. 三元社
- ウェブサイト：作成者（発行年）ウェブサイトの名称. URL, 確認日（ウェブサイトの名称や発行年が不明な場合は省略してもよい）
  - 例：生物多様性 JAPAN（2013）IUCN 減災（災害リスク軽減）のための環境の手引き. <http://www.bdnj.org/pdf/140509.pdf>, 2014年12月25日確認

## 六、注

- 本文中に注を付ける場合は、脚注機能を使い、該当箇所右端に上付き文字で通し番号「1, 2, 3」を付け、注の内容はページ末に記載すること。

以上